

松本市路線バスに関するアンケート調査結果について

1 実施概要

(1) 趣旨

松本市における公共交通の現状と、今後の在り方を考える機会とするため、広く市民の意見を聴取したものです。

(2) 実施期間

令和3年8月19日（木）～令和3年9月5日（日）

(3) 実施方法

ア ながの電子申請サービスを利用したWebアンケート

イ 75歳以上の高齢者を対象として、旧市、新市、合併5地区の3つの地域で各1,000人（計3,000人）を無作為抽出した郵送によるアンケート

2 実施結果概要

(1) 回答数

Web回答	509件
郵送回答	1,925件
合計	2,434件

(2) 郵送分回収率

約64%

(3) 地区別回答数

旧市			新市			合併5地区			その他		
地区名	回答数	割合	地区名	回答数	割合	地区名	回答数	割合	地区名	回答数	割合
第1	13	0.5%	島内	86	3.5%	四賀	74	3.0%	市外	49	2.0%
第2	18	0.7%	中山	21	0.9%	安曇	117	4.8%	不明	64	2.6%
第3	50	2.1%	島立	41	1.7%	奈川	25	1.0%			
東部	19	0.8%	新村	28	1.2%	梓川	227	9.3%			
中央	33	1.4%	和田	21	0.9%	波田	225	9.2%			
城北	88	3.6%	神林	56	2.3%						
安原	53	2.2%	笹賀	66	2.7%						
城東	32	1.3%	芳川	106	4.4%						
白板	56	2.3%	寿	88	3.6%						
田川	28	1.2%	寿台	31	1.3%						
庄内	153	6.3%	岡田	42	1.7%						
鎌田	165	6.8%	入山辺	43	1.8%						
松南	43	1.8%	里山辺	89	3.7%						
			今井	29	1.2%						
			内田	15	0.6%						
			本郷	115	4.7%						
			松原	25	1.0%						
計	751	30.9%	計	902	37.1%	計	668	27.4%	計	113	4.6%
									合計	2,434	100.0%

3 実施結果詳細

(1) グラフについて

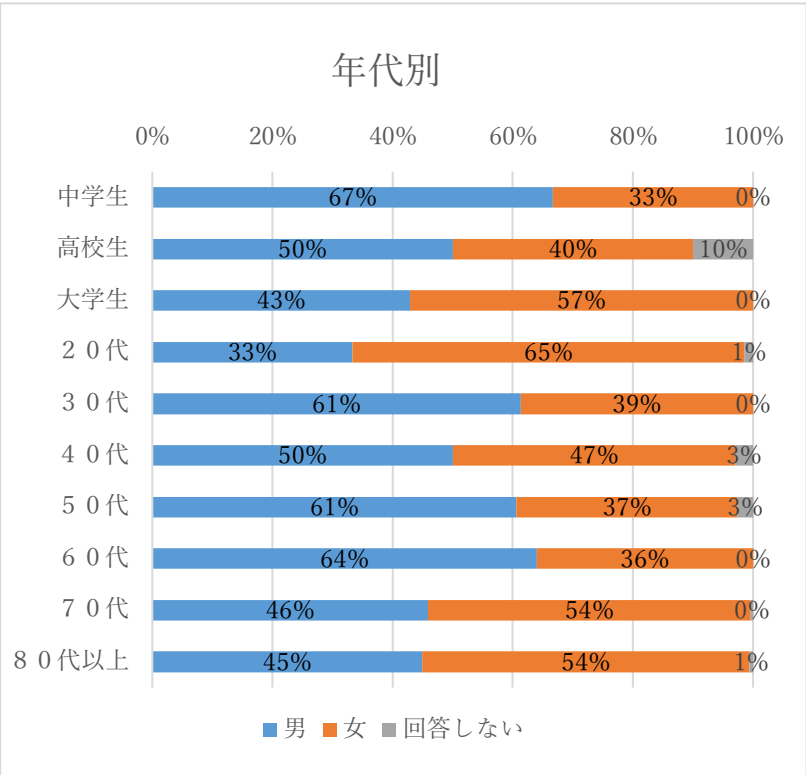
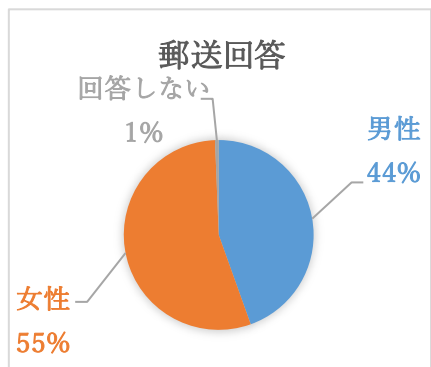
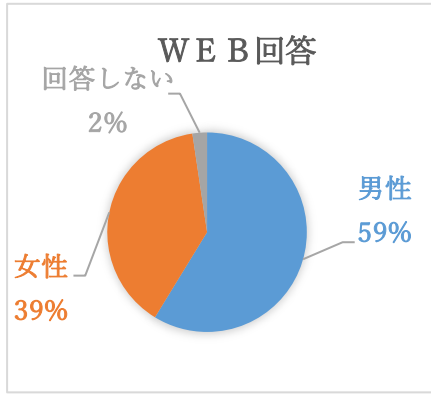
ア 円グラフ

Web回答及び郵送回答それぞれの設問毎の総回答数を100%とした回答割合を集計しています。

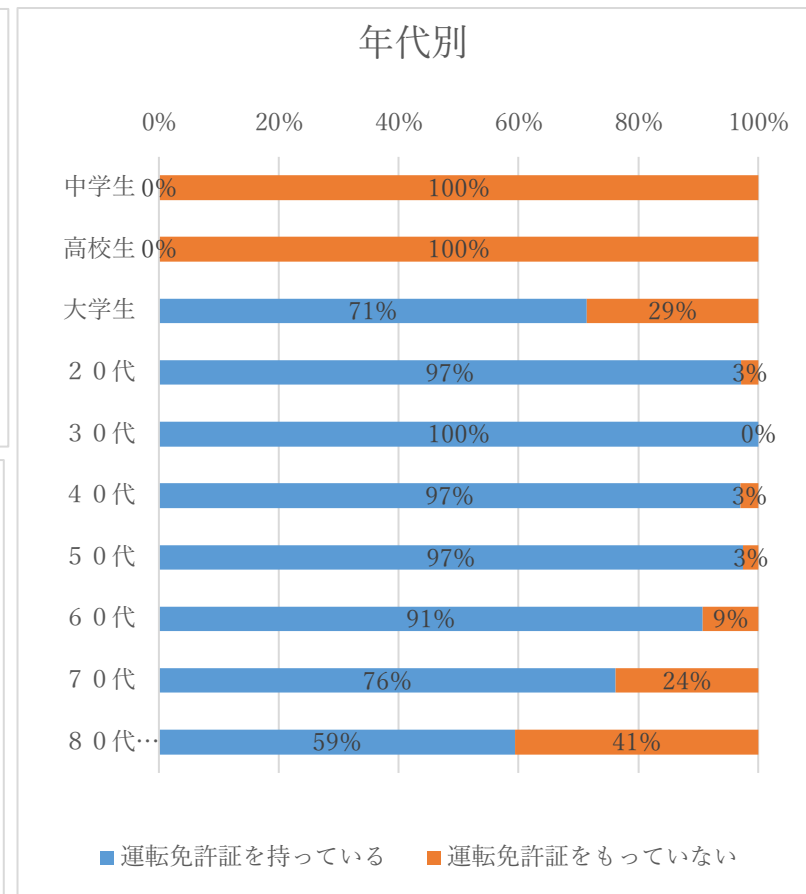
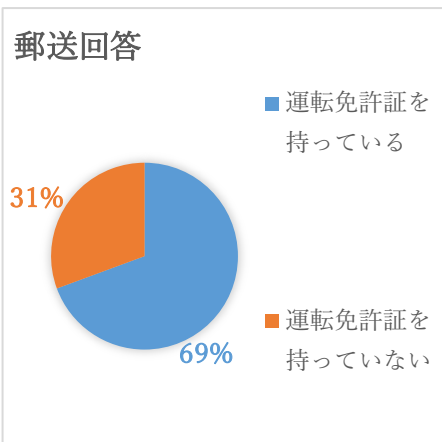
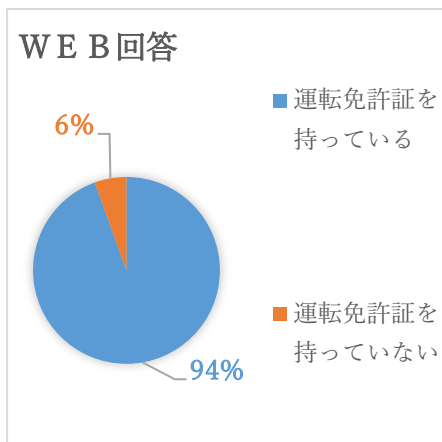
イ 棒グラフ

Web回答と郵送回答を合わせて、年代別に集計したものです。各年代の設問毎の総回答数を100%とした回答割合を集計しています。

(2) 男女比

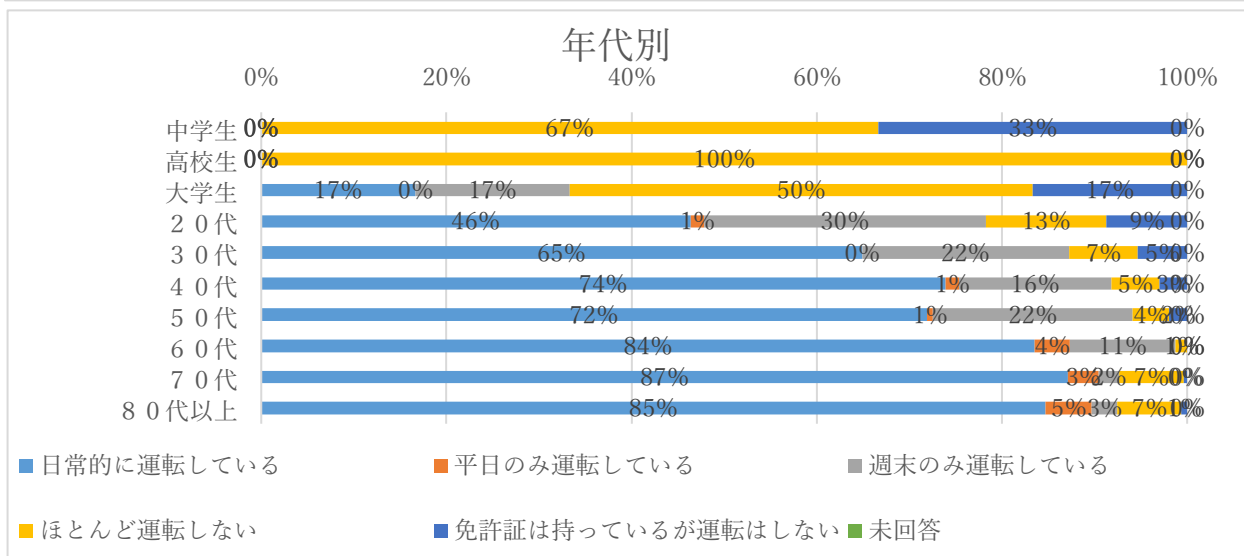
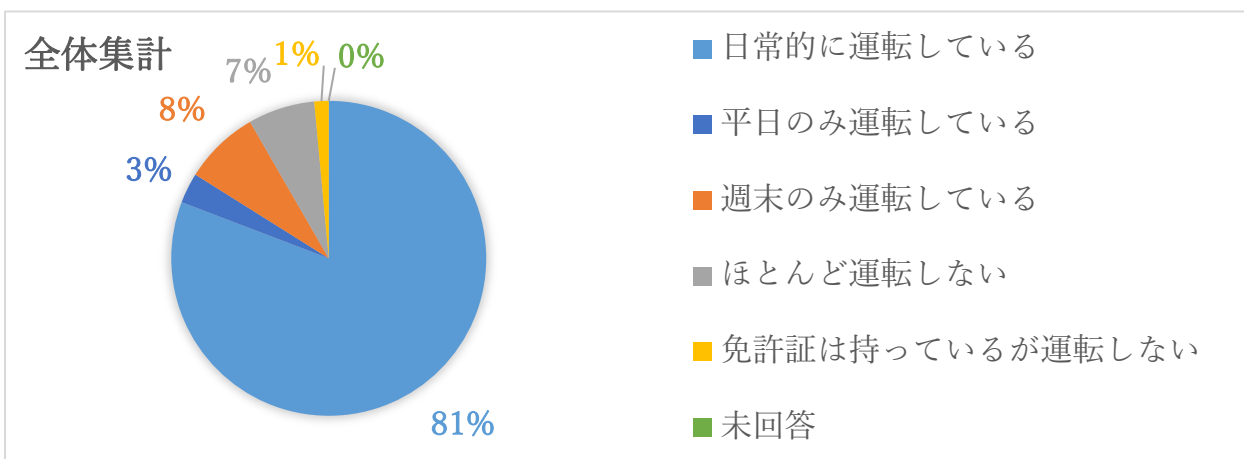
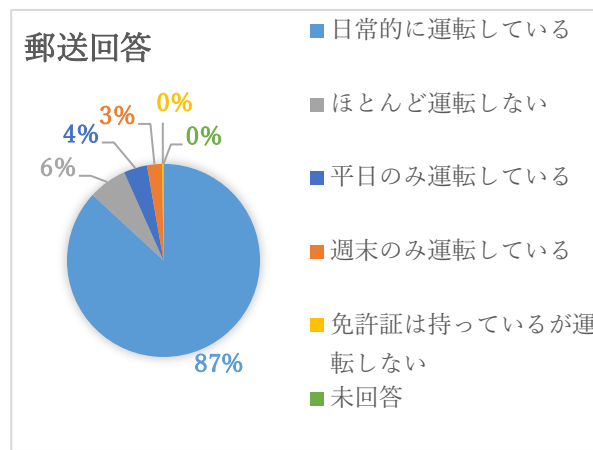
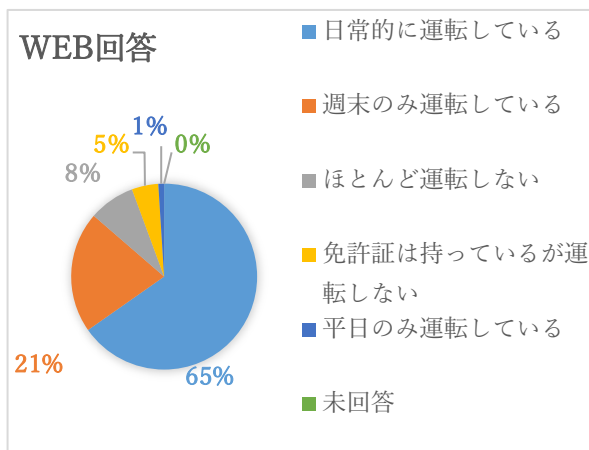


(3) 運転免許証の保有状況



運転免許証の保有率では、20代から60代で高い割合となっており、80代以上でも60%弱の保有率となっている。

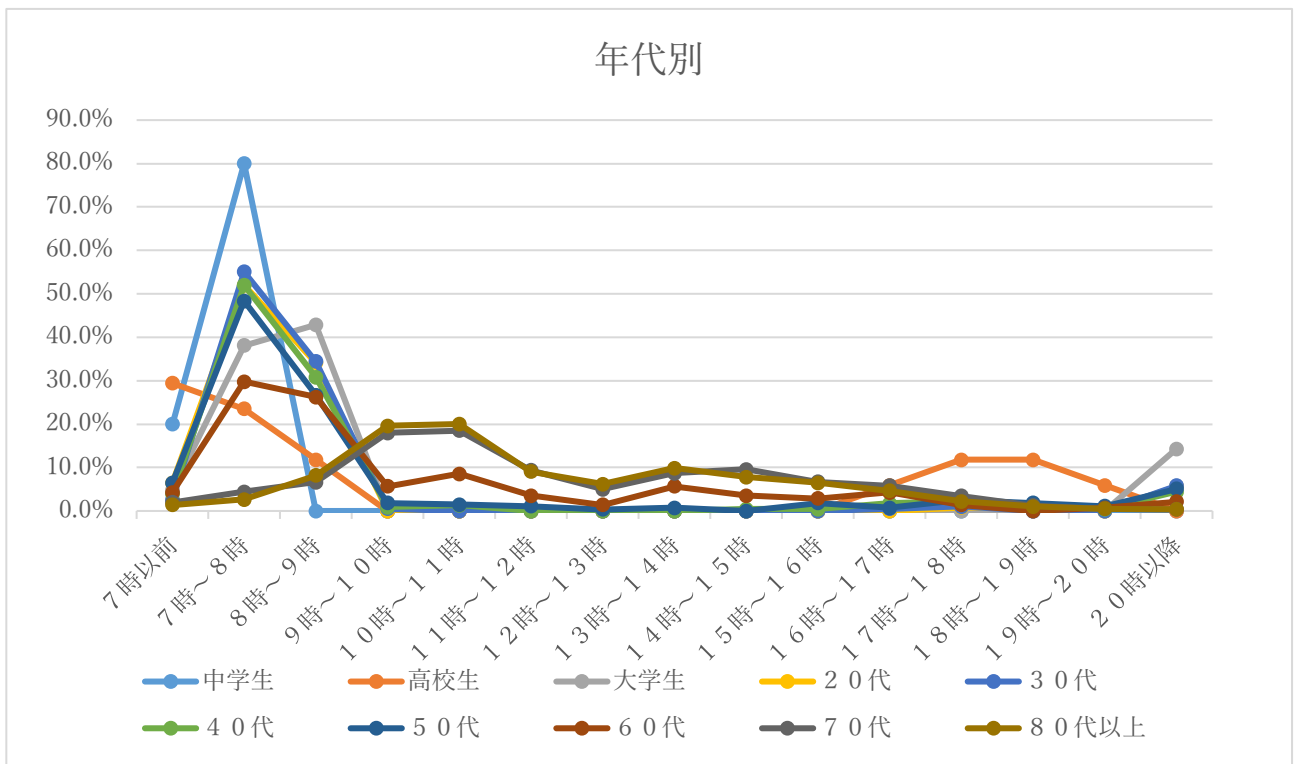
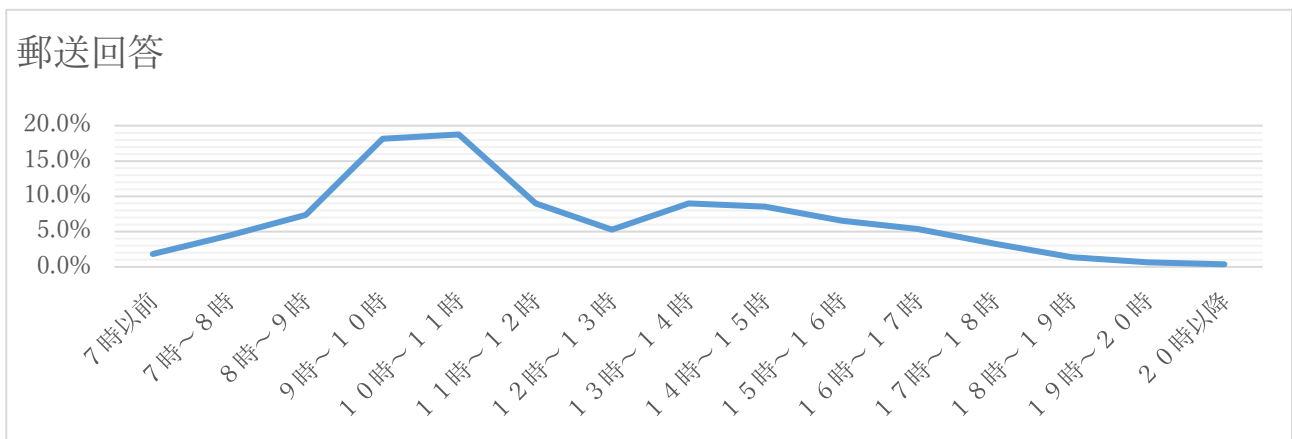
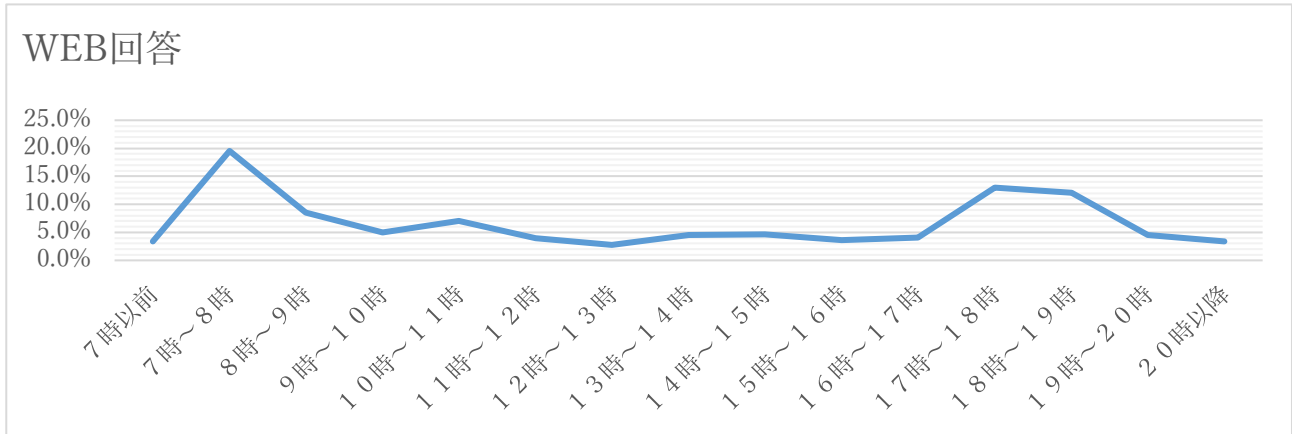
(4) 運転状況



※中学生年代の回答において、齟齬が見られますが、そのままの回答で集計しています。

免許の保有率は20代から60代で高い割合を示しているが、日常的に運転している割合は、70代、80代が高い割合を示しており、年齢が高くなるにつれて、日常の移動手段として、自家用車を使用していることが分かる。

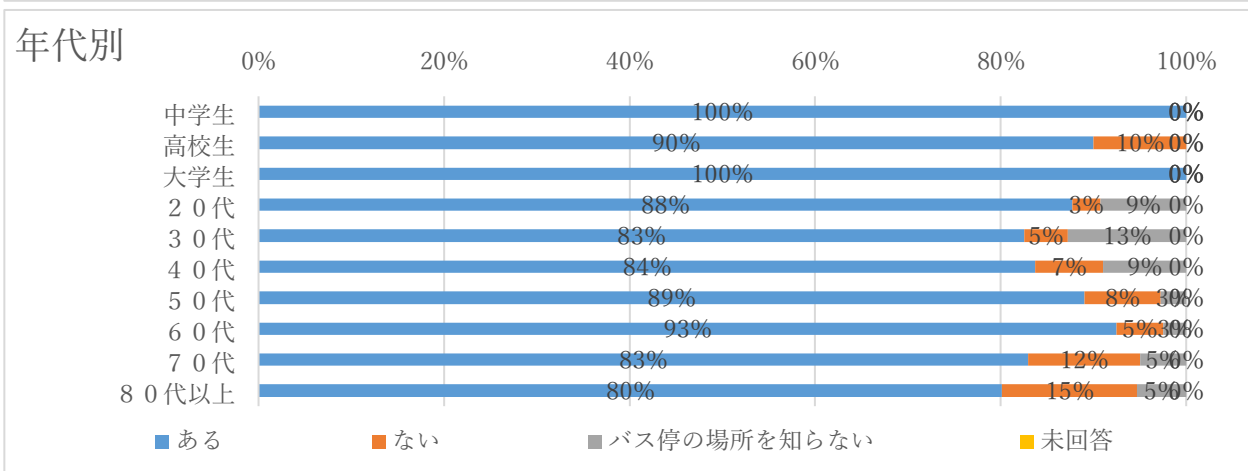
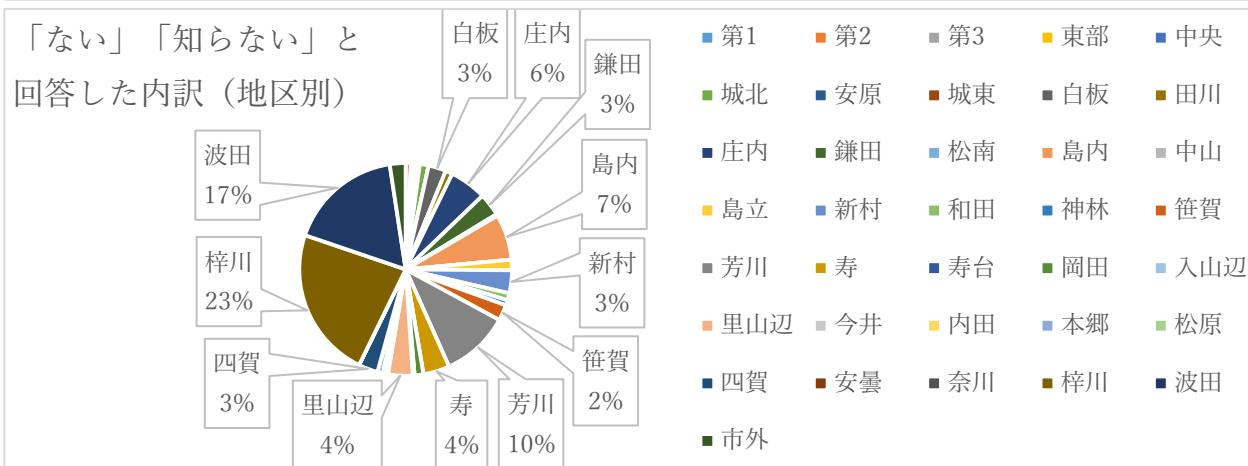
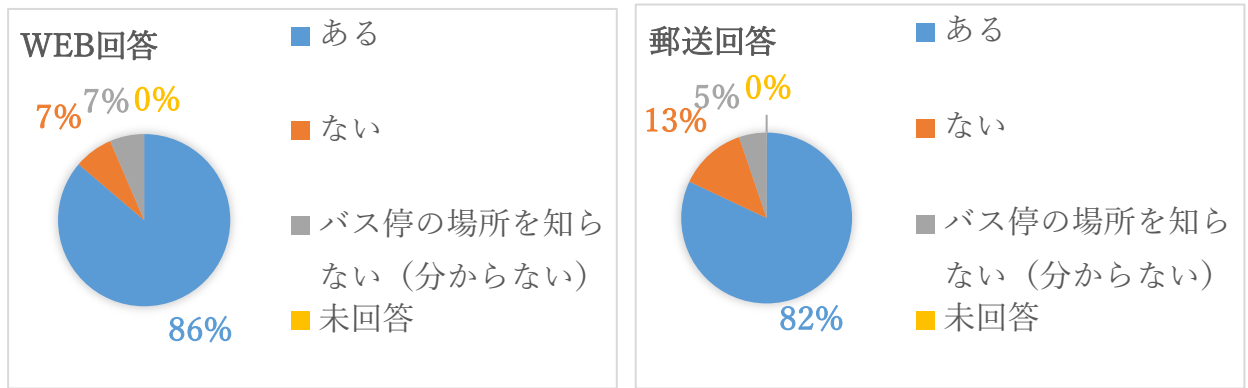
(5) 移動する時間帯



朝の通勤・通学時間帯は、移動が集中しているが、その他の時間帯で同じような集中は見られない。

70代、80代共に、9時から11時の時間帯の移動が多い。

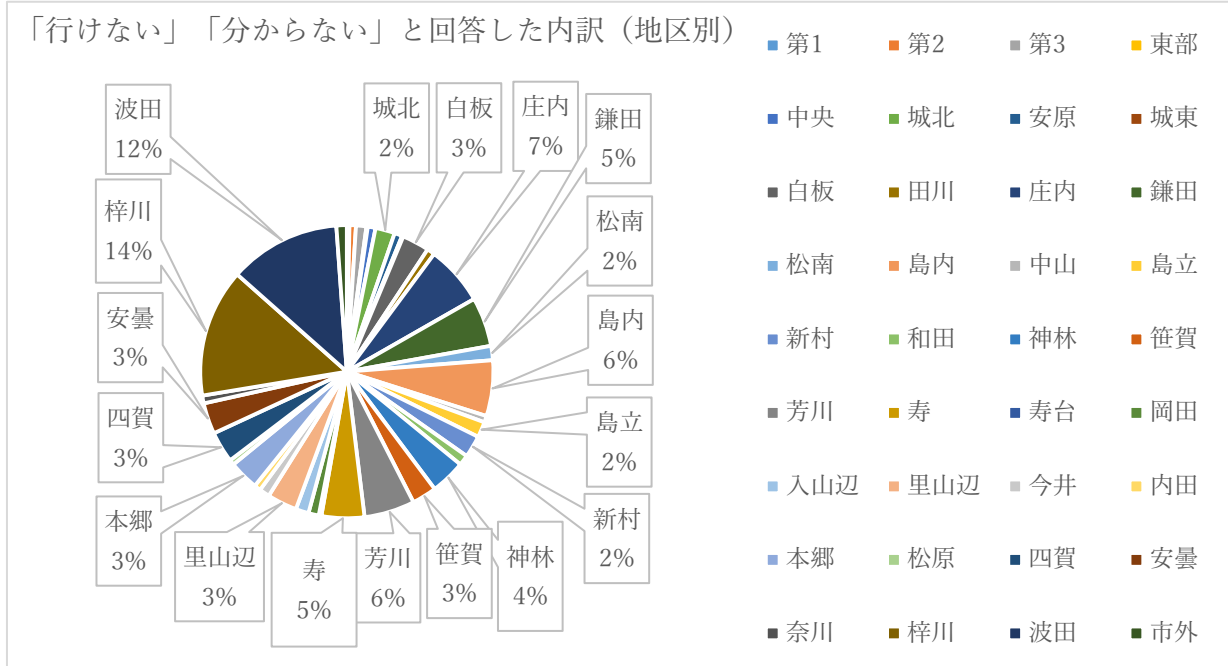
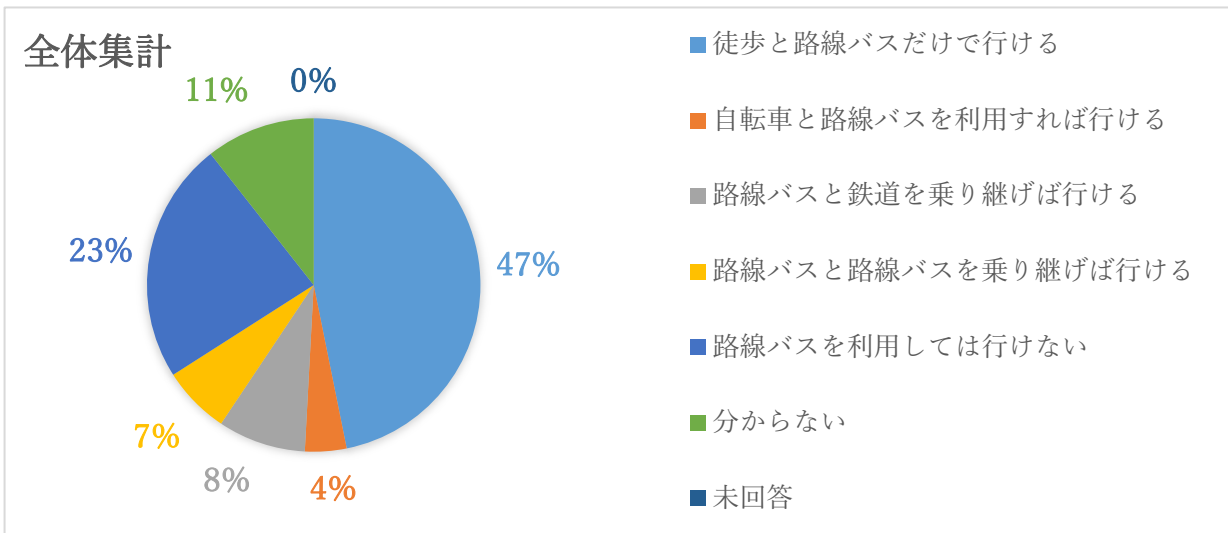
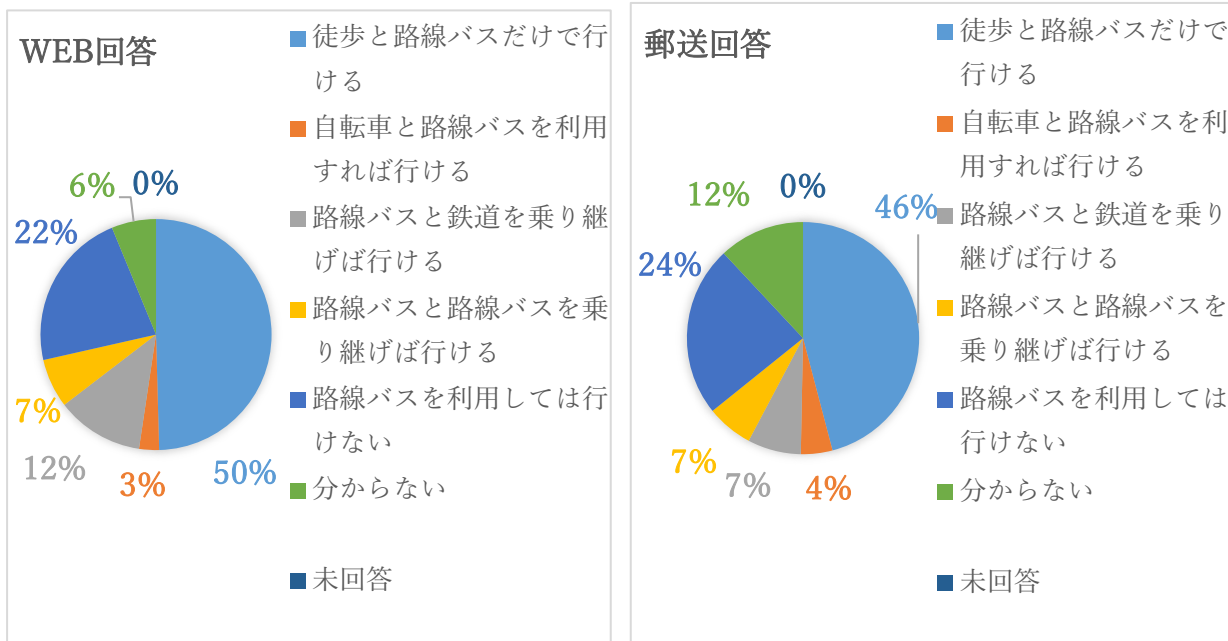
(6) 自宅から歩いて行ける距離にバス停があるか

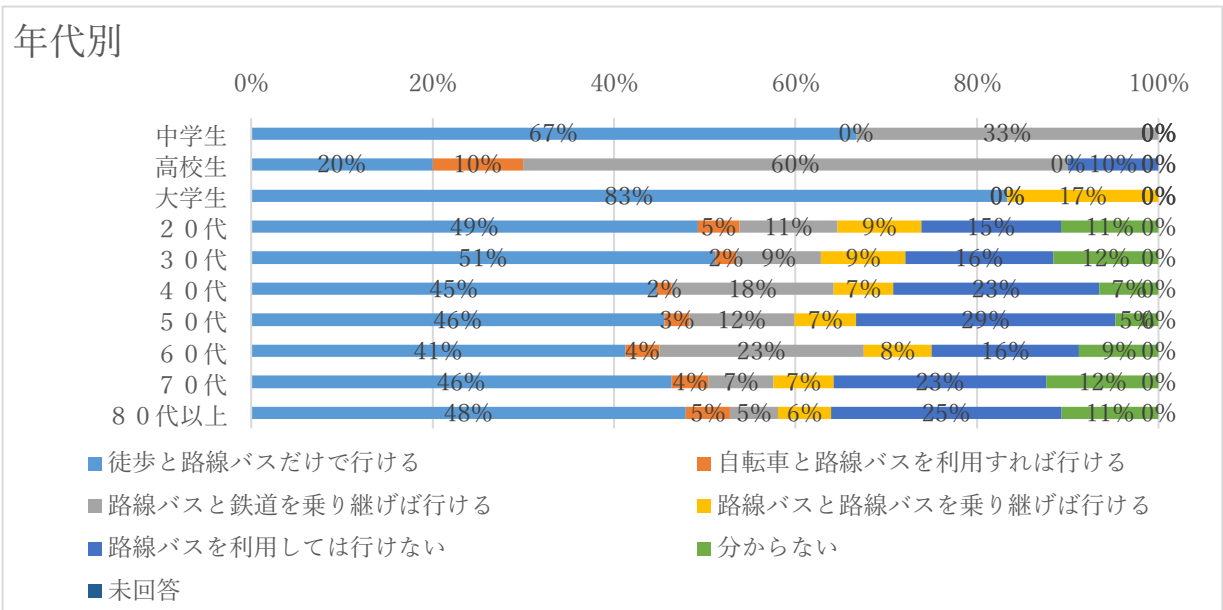


回答の多くで、自宅近くにバス停があることが分かる。

70代と80代で「ない」割合が増えているが、歩いていける距離に対し、60代以下と感覚的な差がある可能性がある。

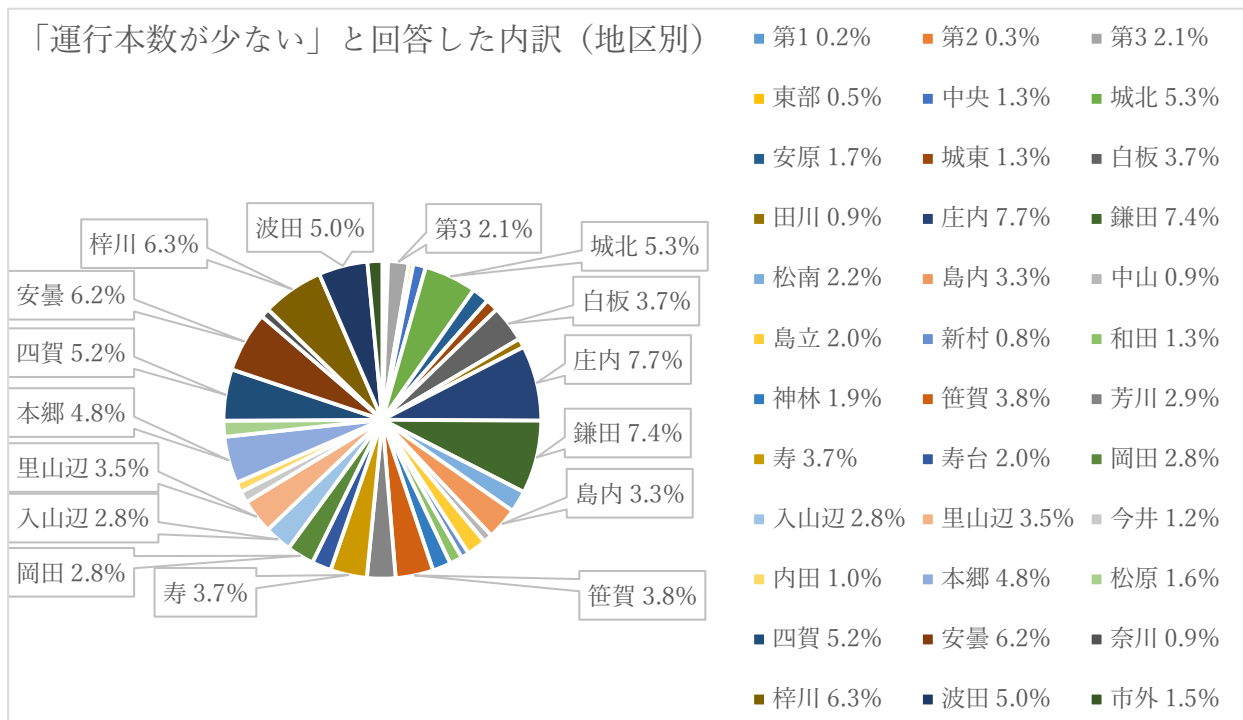
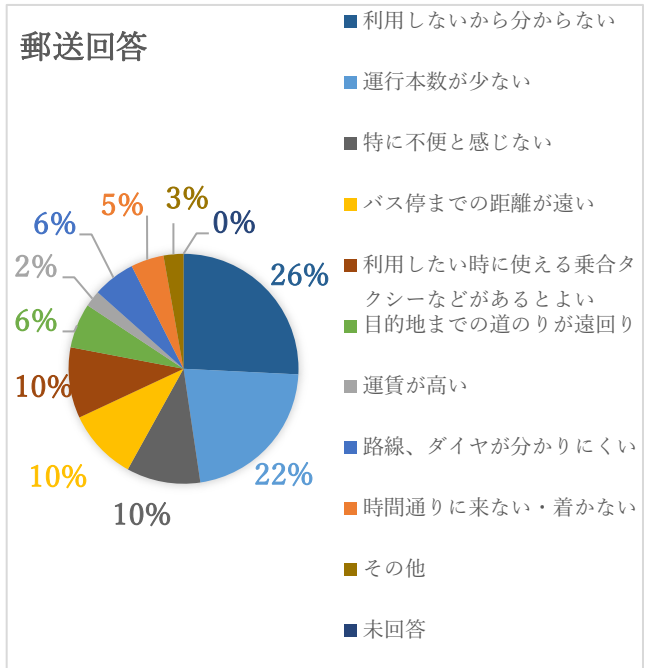
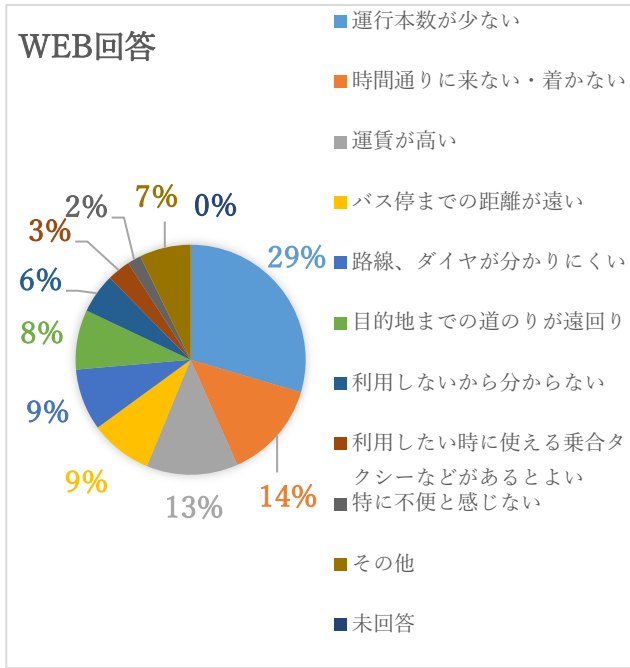
(7) 路線バスを利用して目的地まで行けるか

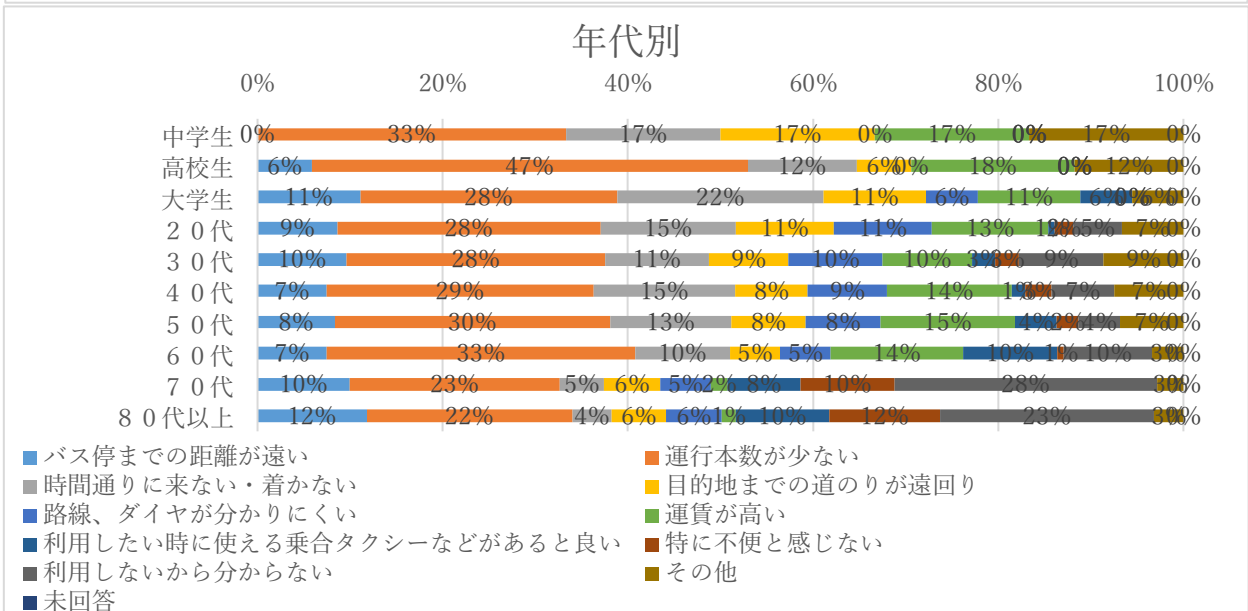
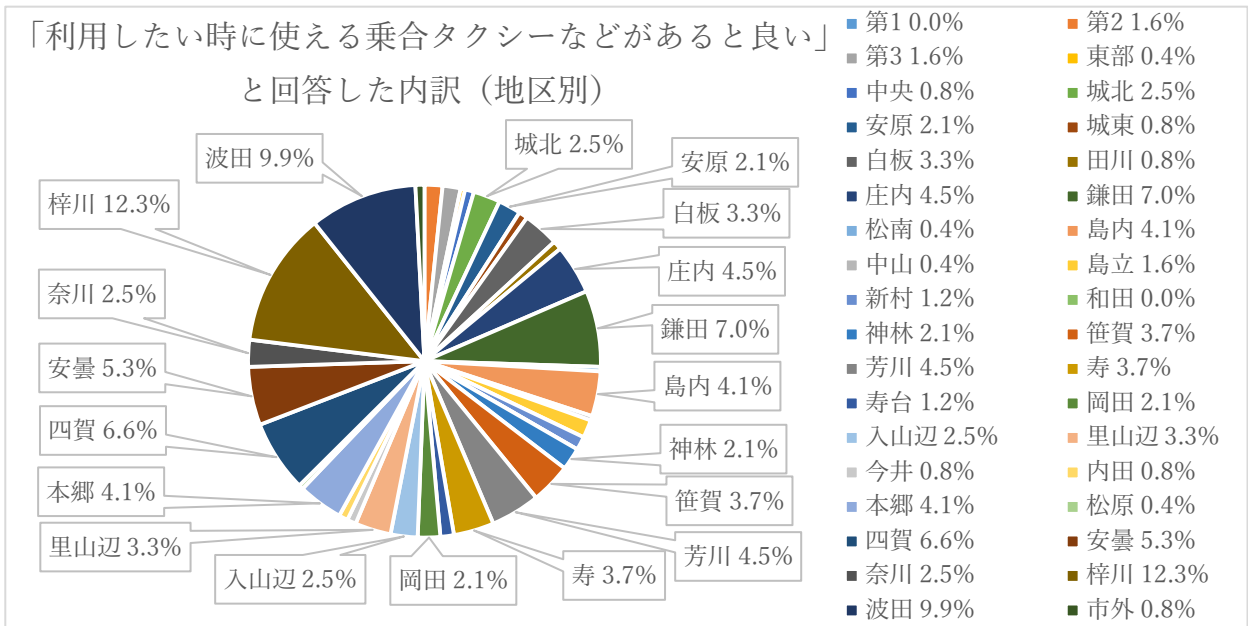




回答方法別では、半数近くが路線バスと徒歩で目的地まで行けると回答している。年代別で見ると、高校生は鉄道を利用して通学する割合が高い。多くの年代で、目的地まで路線バスを利用しては行けない割合が一定数ある。

(8) 路線バスが不便だと感じる点や改善点





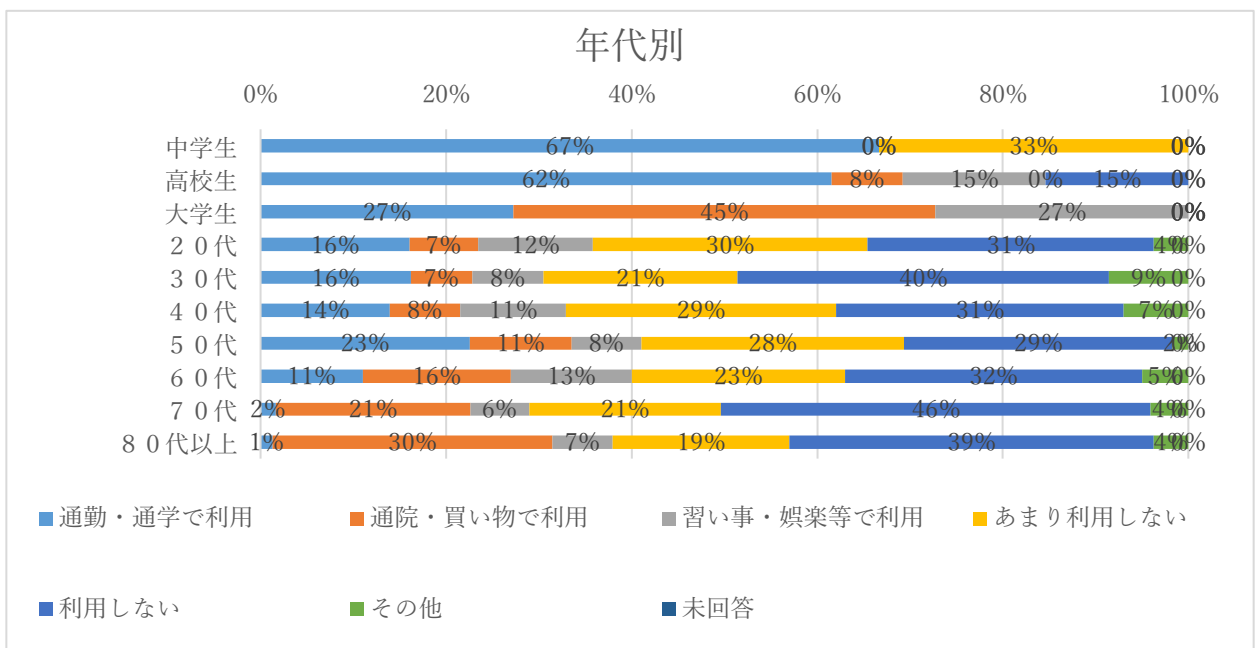
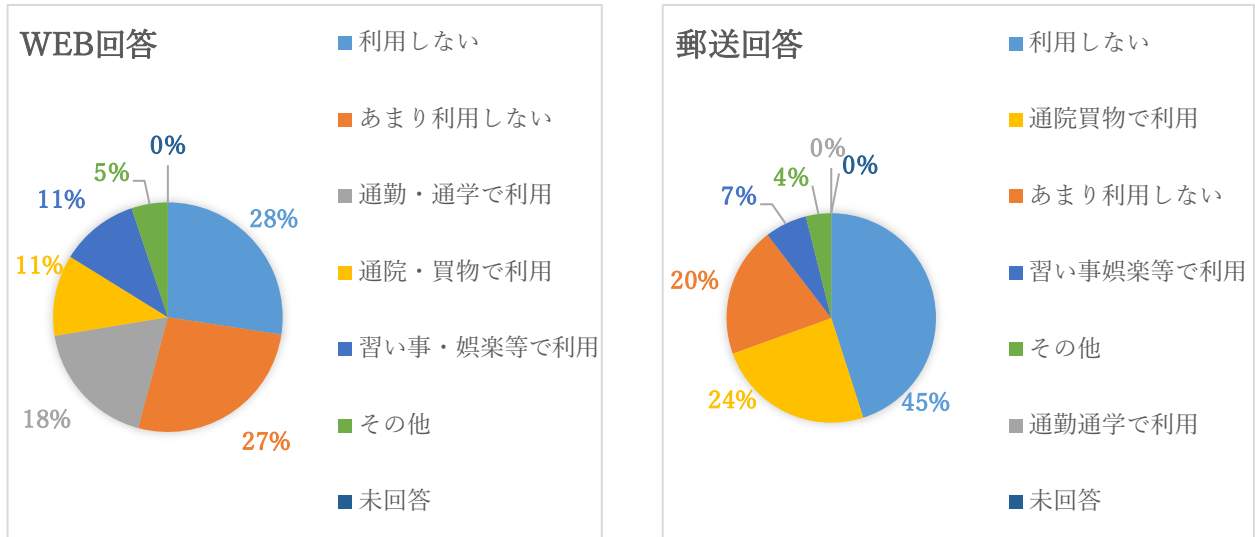
回答方法及び年代別共に運行本数が少ないと回答した割合が比較的高い。

60代までは、時間通りの運行や運賃に対し、不便だと感じている回答が一定数ある一方で、高齢者では同様の不便さを感じている割合はさほど高くなく、逆に乗合タクシーの需要が高くなっている。

【路線バスが不便だと感じる点や改善点のその他の回答】

- ・鉄道との待ち時間、乗り継ぎがうまく接続されていない、乗り継ぎが不便
- ・欲しいルートがない、利用したい時間帯の便がない
- ・朝の通勤・通学時間に間に合う運行がない
- ・終バスが早い、土日祝の運行本数が少ない
- ・天候によって時間通りに来ない
- ・TSで一方向しかないのが不便
- ・郊外へのアクセスが悪い、中心市街地への直行がない
- ・ルートが長い、自動車移動するより時間がかかる
- ・バスがどこにいるか分からない
- ・地域にバスがない、バス停が少ない、停留所に椅子がない
- ・キャッシュレス決済が利用できない、現金しか使えない
- ・バスによって乗り方や支払い方法が違うので面倒を感じる
- ・乗り方が分からない、支払い方法が分からない

(9) 路線バスの利用目的



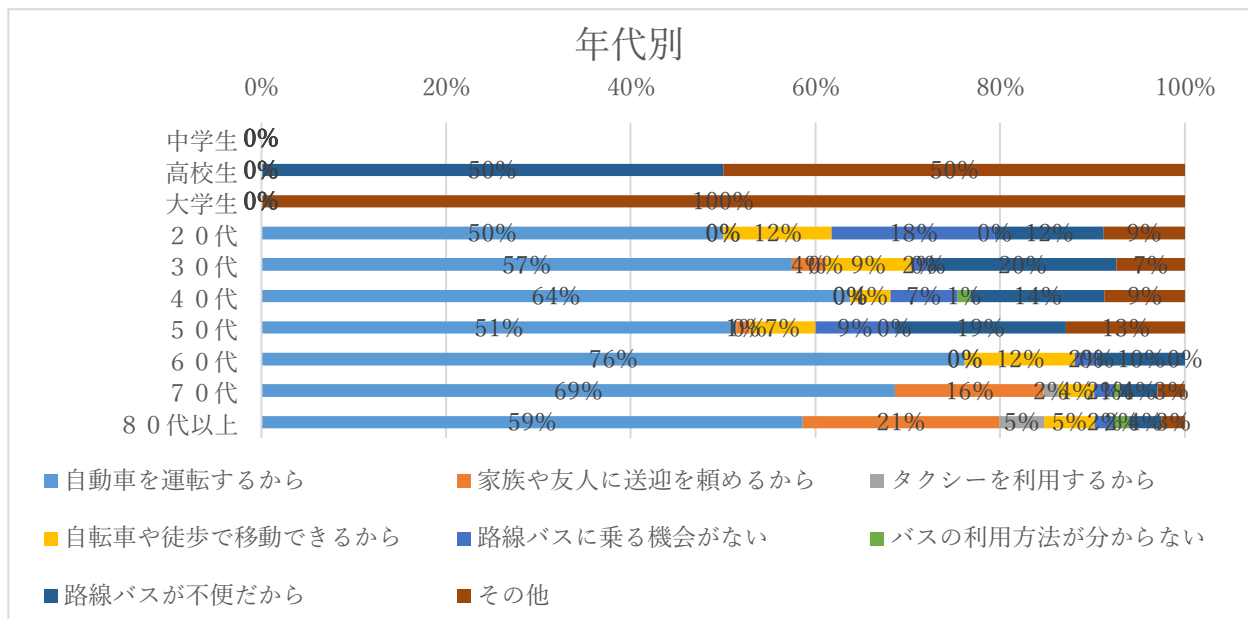
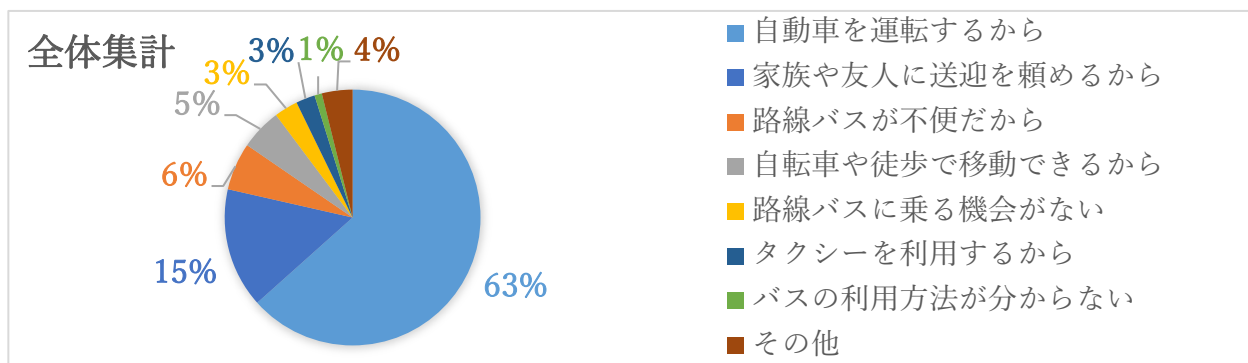
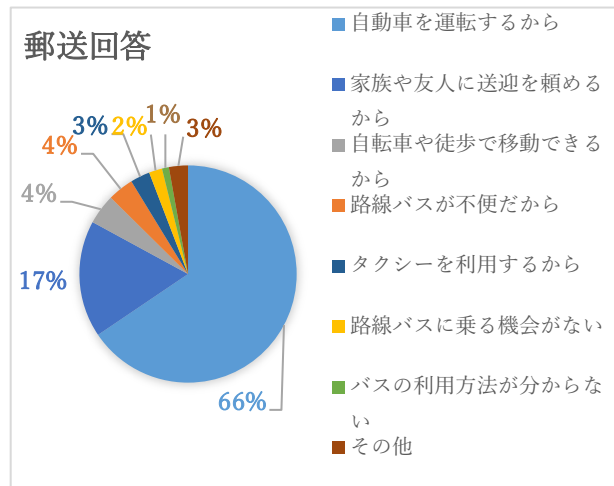
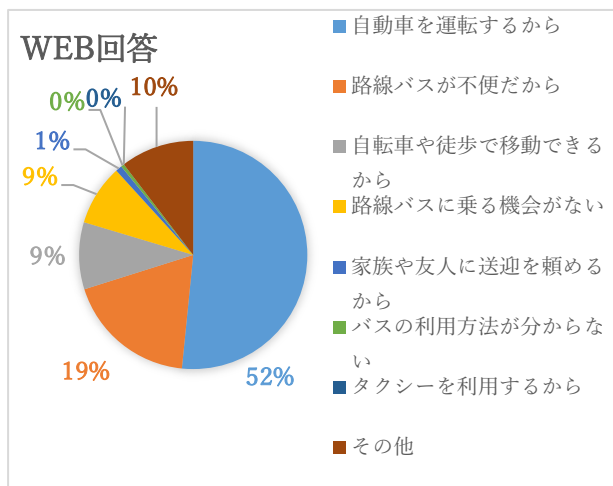
回答方法別では路線バスをあまり利用しない・利用しないとの回答で半数以上の割合を占めている。

年代別では、学生年代は通学や通院・買い物での利用が半数以上を占める一方で、20代以上になると、あまり利用しない・利用しないとの回答で半数以上を占めている。

【路線バスの利用目的のその他の回答】

- ・旅行（松本駅から鉄道を利用するとき）
- ・駐車場料金よりバス運賃の方が安くなるとき
- ・子供と出掛けるとき
- ・松本駅前に出かけるとき
- ・飲み会
- ・雨の日

(10) 路線バスを利用しない理由



※中学生年代においては、全員が未回答であったため数値が出ていません

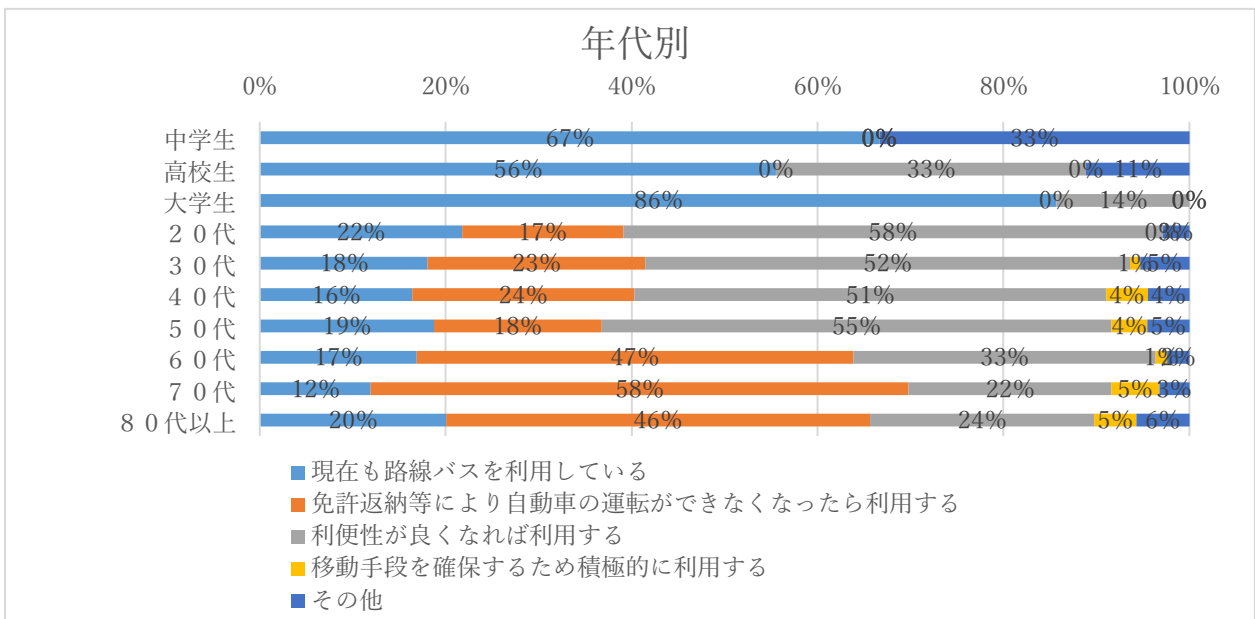
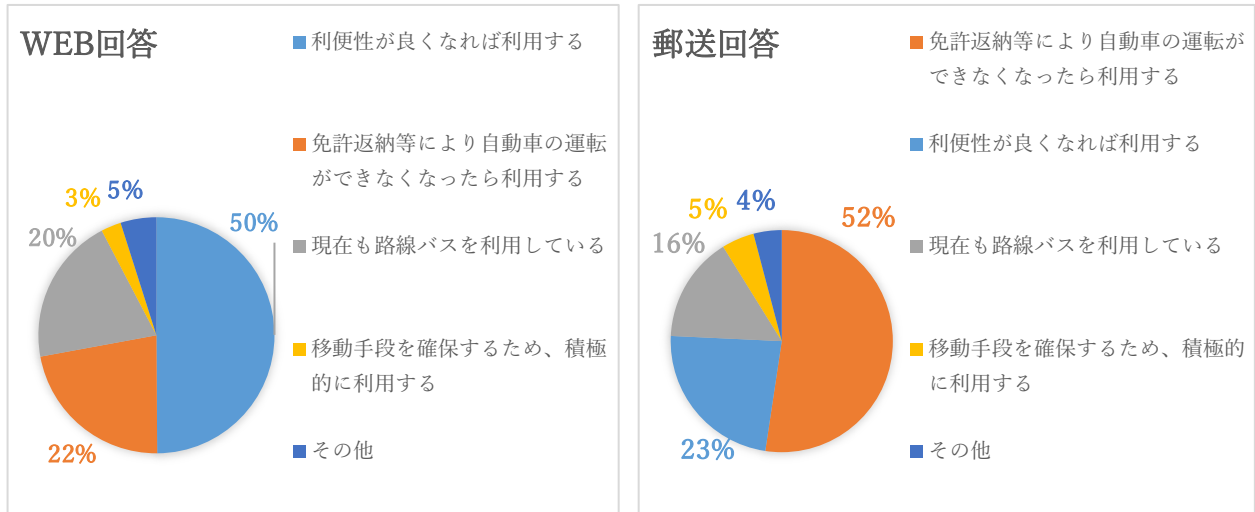
回答方法別、年代別共に自動車で移動するため、路線バスを利用しないとの理由が大半を占めている。

免許保有率が下がる高齢者においては、家族や友人の送迎による移動割合が若年層より高くなっている。

【路線バスを利用しない理由のその他の回答】

- ・鉄道で利用できるから
- ・目的地に行く路線がない
- ・通勤時間に対応していない
- ・帰りの本数が少ないから
- ・バス停が周辺にない
- ・運賃が高い

(11) 路線バス利用に対する考え方

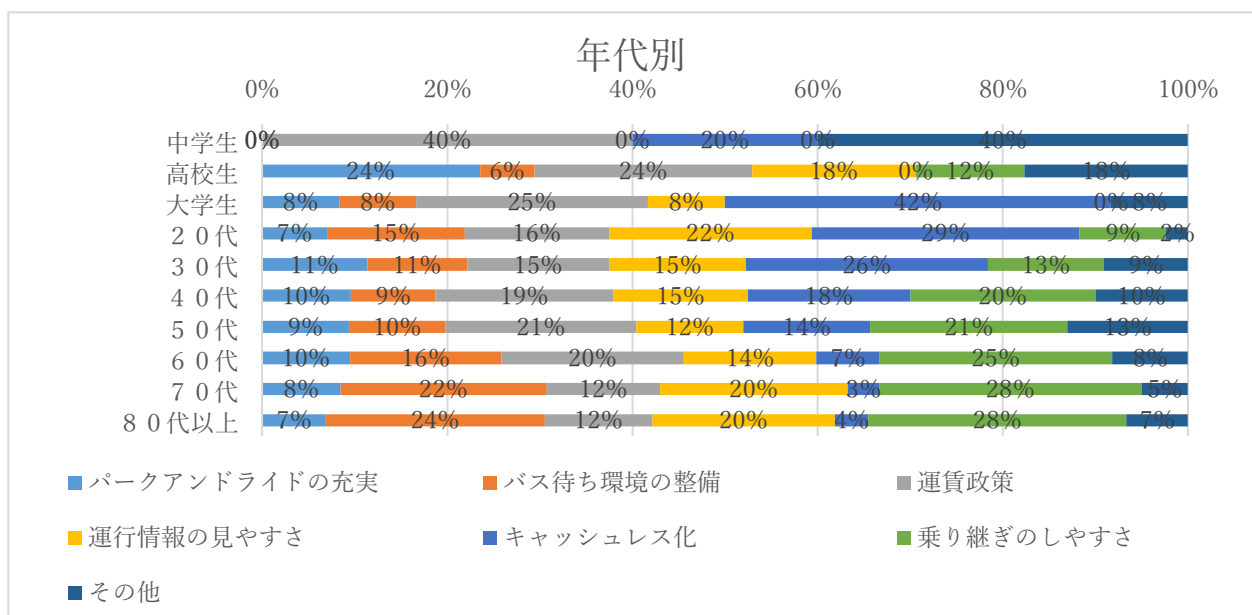
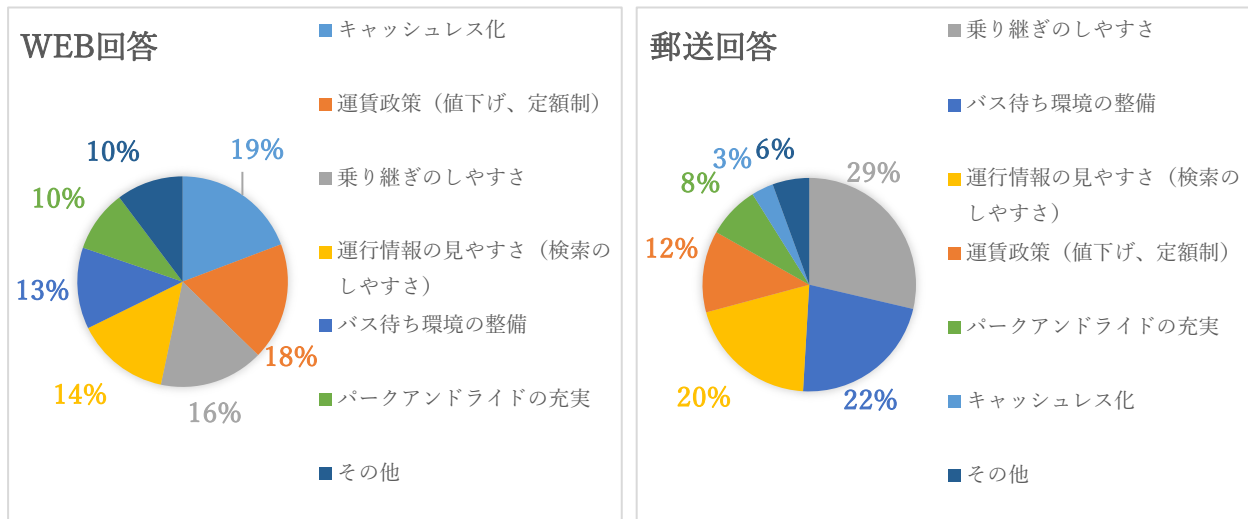


50代までは、利便性が良くなれば利用する割合が高いのに対し、60代以上では免許返納後に利用する割合が高くなっている。

【路線バス利用に対する考え方のその他の回答】

- ・ 運行時間が多くなれば利用する
- ・ キャッシュレス化や運賃が安くなれば利用する
- ・ 渋滞緩和のために、利用していきたい
- ・ マイカーの利便性を上回るのは困難と考える。ターゲットを絞り込んだ運用を考えた方が良いのではないか
- ・ バスを利用できる環境の人が利用するような強い施策が必要だと思う
- ・ 子供のための試乗など、バスとの交流の機会が欲しい
- ・ 雨なら車、晴れなら自転車が便利
- ・ 今は何も考えていない
- ・ 将来的にも利用しない
- ・ 自動車の方が便利のため路線バスを利用する予定はない

(12) 有効な施策



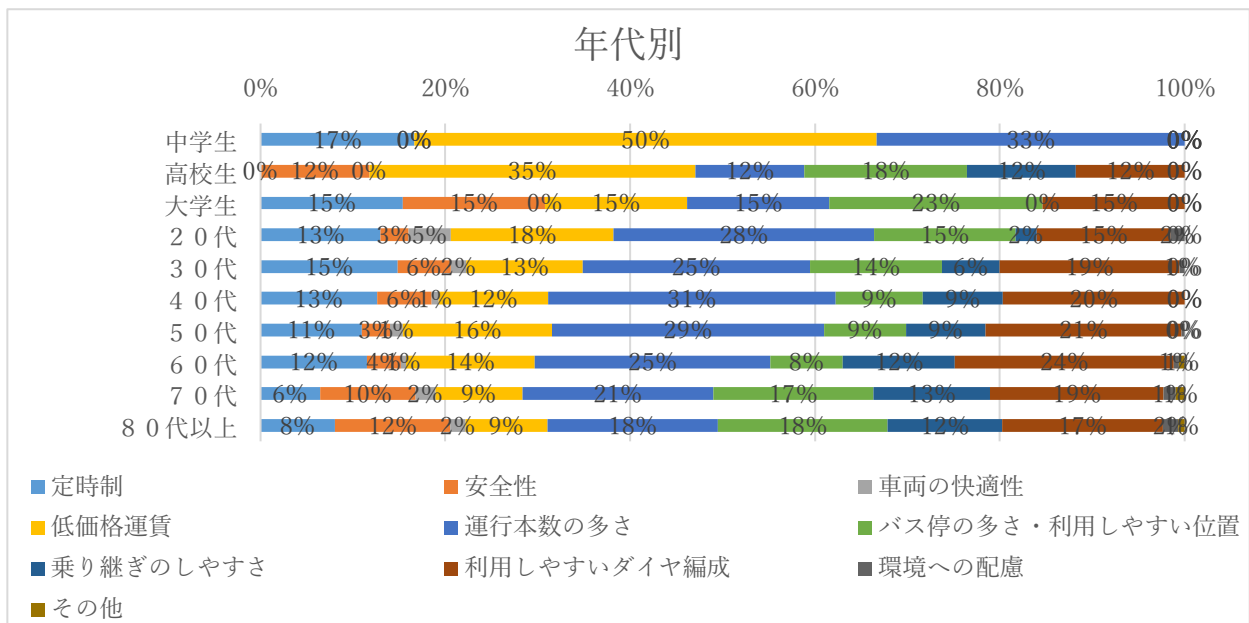
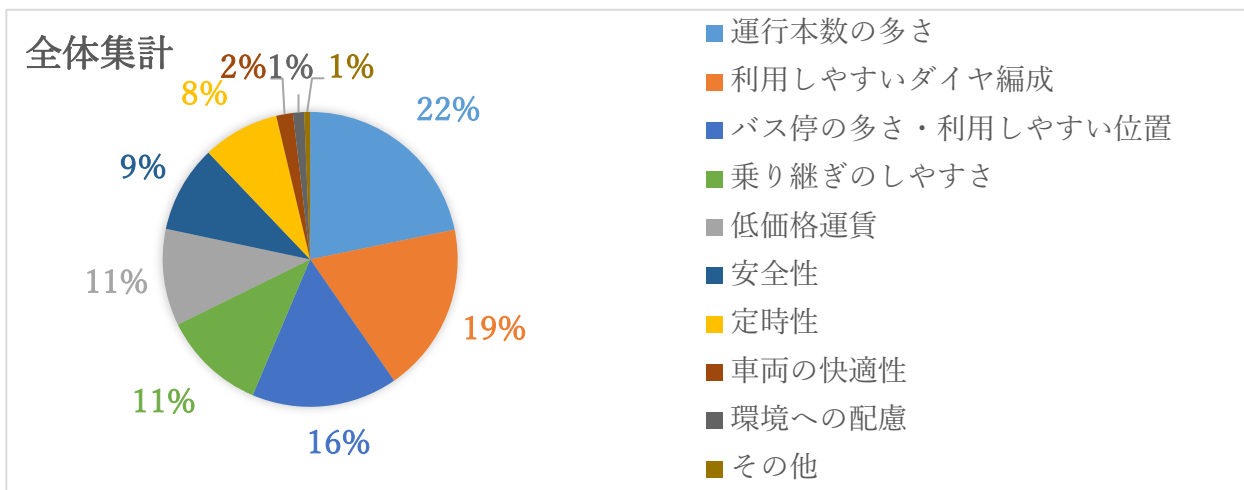
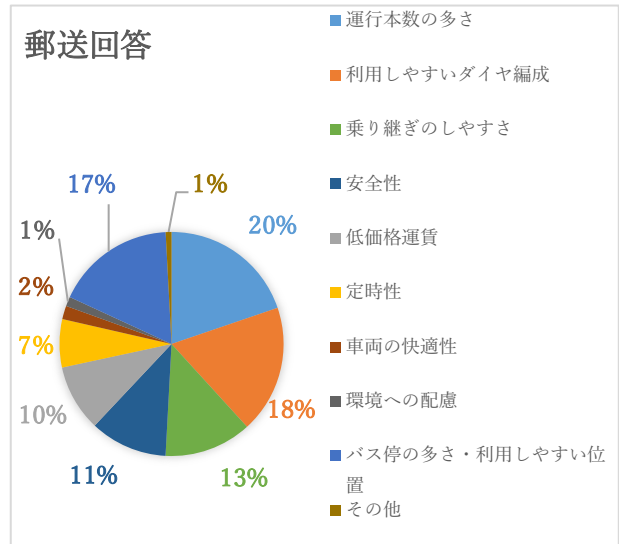
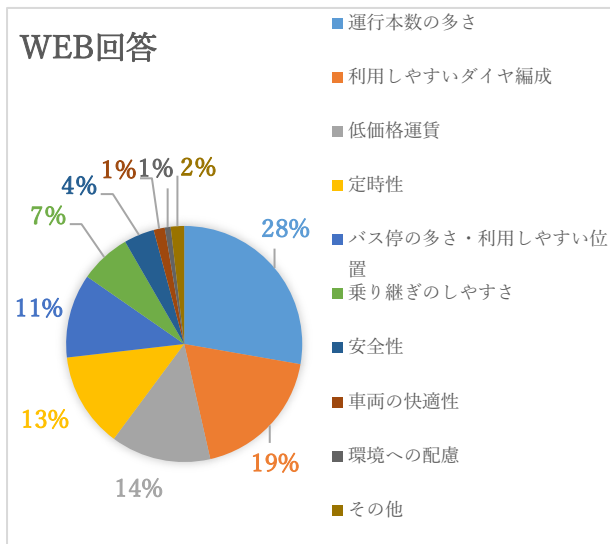
Web回答では、回答に大きな差は出なかったが、郵送回答では乗り継ぎにしやすい、バス待ち環境の整備、運行情報の見やすさが比較的割合が高かった。

大学生から30代までは、キャッシュレス化の回答割合が高く反比例するように、高齢者では乗り継ぎのしやすさの回答割合が高くなっている。

【有効な施策のその他の回答】

- ・路線バス以外の交通機関を含めたワンストップサービス
- ・可能であればハブアンドスポークではなくポイントトゥポイントがベターだと思う
- ・路線の増設、運行本数を増やす、終バス時間の延長、
- ・乗り継ぎなし、バス専用レーンの設置、双方向運行
- ・あがたの森通りを南北に横断する路線の新設
- ・通学への補助、エリア料金制
- ・路線バスの宣伝、各企業へのマイカー通勤抑制の働きかけ
- ・バスの位置情報、Wi-Fi環境の整備、多国語案内、位置情報提供
- ・渋滞解消、定時運行のための施策

(13) 路線バスに求めるもの

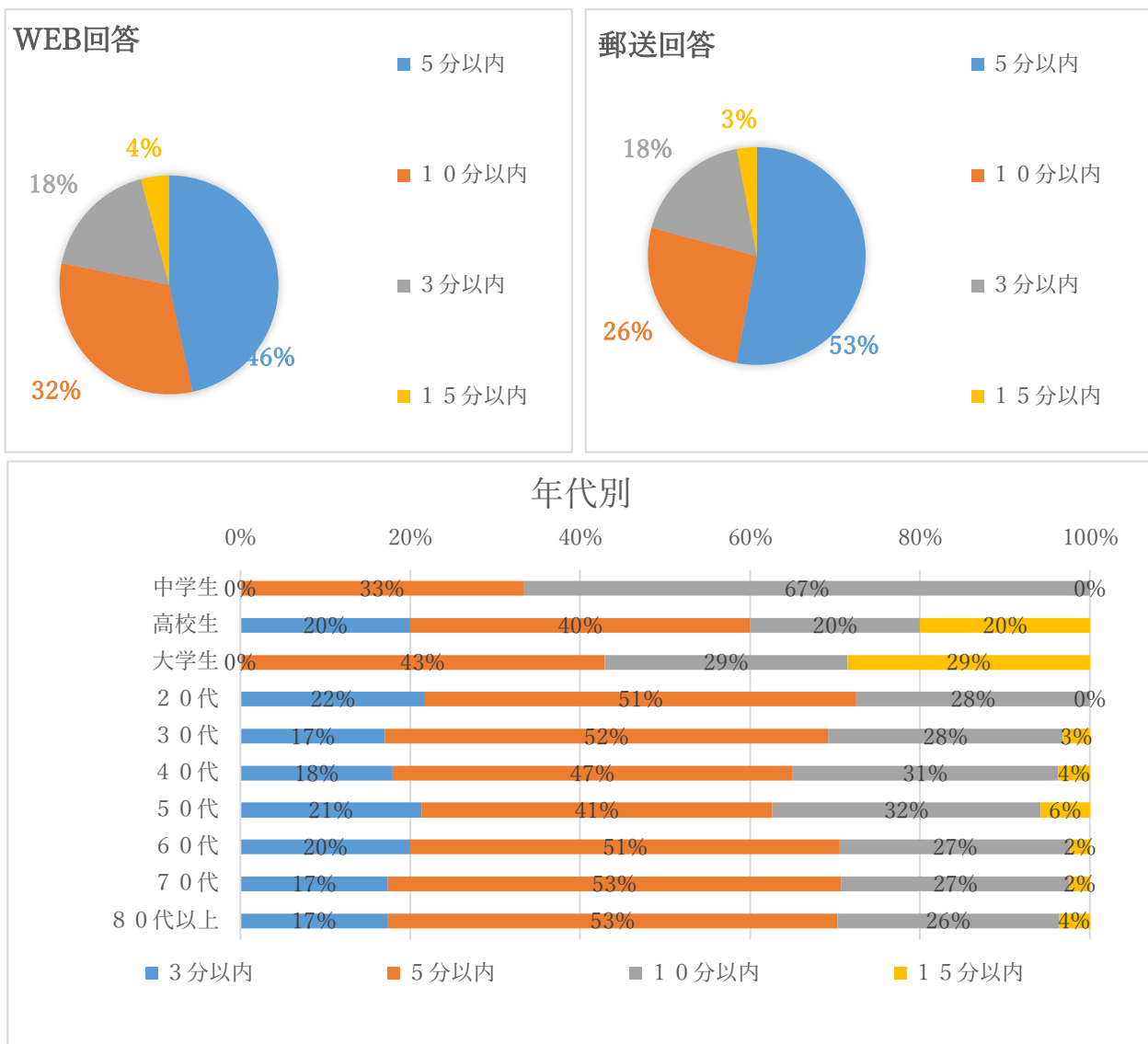


回答方法別、年代別共に運行本数の多さと利用しやすいダイヤを路線バスに求めている。定時制より運行本数の多さを求めていることについて、路線バスの不便な点についても、運行本数が少ないとの回答割合が高いことから、利用したい時に利用できる運行ダイヤを求めていると推測する。

【路線バスに求めるもののその他の回答】

- ・ 季節に合わせた運行ダイヤ、始発・終発の時間延長
- ・ 乗り継ぎせずに目的地へ行きたい
- ・ スーパーや病院等の生活に密着したバス停の位置
- ・ 空気を運ぶバスは廃止しタクシー利用を検討、乗車率から本数の増減を検討する
- ・ キャッシュレス化
- ・ 子連れ利用の利便性、自転車の載せ込み
- ・ 運転手のサービス向上
- ・ 公共交通の価値の共有

(14) バス停まで自宅から徒歩何分以内なら利用するか



回答方法別、年代別共に5分以内が最も割合が高く、次いで10分以内となっている。

20代から60代の兵器歩行速度を115m/分として5分以内の距離では、自宅から概ね600m以内にバス停があることが望ましい。

(15) 自由記述（全意見から一部を記載）

ア 路線に関わる内容

- ・タウンズニーカーを利用しています。5分以内で乗れるので大変助かっています。欲を言えば反対回りもして頂ければ有難いです。
- ・遠回りなので目的地までの時間がかかる。もう少し短時間でいきたい。
- ・高齢化により安全かつ低運賃を望みます。そのためにも、乗り継ぎも大変なのでできる限り目的地直行便なら利用したいと思う。
- ・利用したい時に使える乗合タクシー又コミュニティバスもバス停をもう少し増やして年寄りでも利用しやすくすればありがたいと思います。
- ・街中と郊外の本数の差が大きい。
- ・コミュニティバスも時々利用しますが 利用者のいない(少ない)バス停は廃止して距離を短くできないものかと思います。

イ ダイヤに関わる内容

- ・時間帯によって定刻に運行できないのは交通状況によって仕方ないとは思いますが。
- ・今は買い物・通院・その他で利用しており、運行時間も苦にならない。私は乗り継ぎがよくなれば、今の運行時間でよいと思います。
- ・電車のダイヤとバスのダイヤの乗り継ぎを便利に。
- ・行きの時間帯は利用できるが通院を終えた昼から昼過ぎに便がない。
- ・乗客の少ない利用時間帯には間引運行。
- ・通勤、通学時間は本数を増やしていただきたいと思います。
- ・20分までば、バスが来るようにしてほしい。

ウ 料金、支払い方法に関わる内容

- ・ICカードの導入等により乗り継ぎ運賃を適用するといった対策を前提に、速達性・快適性重視の幹線系統と、拠点で乗り継いで行ける枝葉の路線を充実させると良いのではと思います。
- ・バス利用が非常に少なくなっているときです。今後利用回数が増えてくると思う時代に、現金使用が減る中で、カードの利用をできるようになればよいかと思います。
- ・料金の支払いの工夫（料金の支払いやすさ）乗り継ぎの工夫。
- ・回数券の購入場所を増やしてほしい（コンビニ等）
- ・現状、運行会社が複数あり、それぞれで運賃や支払い方法が異なっている。公設民営のように、市が統一して欲しい。市街地の運賃が多少高くなっても、郊外の路線を維持していける整備が大切だと思う。
- ・運賃を距離制からロンドンの様にゾーン制にする。その日に乗車した最大の運賃区間によって日の上限運賃を設定する（ICカード限定）例:200円区間しか乗ってなければ500円を上限、300円区間を含んでいれば750円を上限など。
- ・利用する距離が長いので料金が自家用車に比べてかかるので利用しないのが実情だと思う。
- ・片道300円から400円を上限とした運賃体系にする。

- ・免許返納者への優遇措置をお願いしたい。
- ・高齢者になって感じる事は非常に交通機関の悪いことかと。買い物、通院等の時にタクシー乗車割引券等考慮していただきたく思います。
- ・路線バスの本数が少ないこと、免許返納後タクシー運賃の福祉割引乗合タクシーの使用方法等利便性向上。
- ・そもそもなぜ運賃は 190 円とか 290 円なのでしょう？両替の手間がかかるし、200 円とか 300 円の方がお金払いやすいし収入も 10 円増えると思うのですが、どうして？昔からの疑問です。

エ バスの位置情報・案内表示に関わる内容

- ・信州ナビをつかうようになって、バスの位置がわかるようになり、待つ時の不安やイライラが減りました。
- ・運行状況について、もっと分かりやすいアプリがあると良い。(信州ナビは探しにくい。)
- ・路線バスがどこを走っているか、わからない。
- ・観光客が利用し易いように、バス路線と観光場所のわかりやすい案内と表示があればよいと思います。
- ・バスの行く先を年寄りにもわかるような表示にしてほしい。
- ・免許返納後はバスの利用が増えるため、高齢者でも理解しやすい仕組みにしてほしい。

オ 施設、バス待ち環境に関わる内容

- ・バス待ち環境について狭い場所など日よけの屋根等もなくキケン箇所がある。道路が狭いので仕方ないでしょうか？高齢者にもやさしく乗降できると良いです。
- ・バス停近くに駐輪所を設置するなどしてほしい。
- ・アルピコプラザに支所、出張所が入ってほしい。バスダイヤとターミナルも一緒に考えてほしい。
- ・松本駅とバスターミナルを直結してほしい。

カ バス車両に関わる内容

- ・特に市内路線バス(車体)ですが昇降口の段を低くしてもらいたいです。乗車する時に段が高いと脚を上げることが困難なのです。降車時には脚がガクっとなり、体のバランスを崩しやすくて怖い思いをしています。
- ・バスの乗り降りは年寄りにはつらいので利用しにくい。
- ・高齢化社会に対応して低床式小型バスの導入の促進
- ・乗ることが楽しくなる様な外観デザイン、インテリア、BGM、個性的でユニークな運転手の育成 etc
- ・時期や場所によってバスのサイズを変えてはどうか。

キ 路線バスの必要性に関わる内容

- ・高齢者にとって路線バスは移動に欠かせない。今まで以上の利便性を要望。
- ・今にところ利用していないのでわかりませんがこれから先運転が出来なくなれば利用させていただくようになります。路線バスは絶対必要となりますのでこれからも継続して行っていただきたいと思います。
- ・今後運転ができなくなることを考えると、路線バスの必要性を感じてきた。
- ・公共交通は交通弱者にとってなくてはならないものです。また、渋滞解消、雇用対策など重要な仕事です。
- ・コミュニティバスに乗る人が少ないので廃止になるのも心配しています。そんなことにならないようにお願いします。
- ・今後さらに少子高齢化が進むと思われ、免許返納のことも考えるとバスをなくしてはいけない。

ク その他の施策に関わる内容

- ・他の会社などがバス業界に入りやすいようにしてもらえれば、競争が生まれて、より良いバスの運行につながると思う。
- ・バスを走らせていただいて助かるが個人個人で都合も異なるため利用しにくい。地区内専用のタクシーチケット販売し移動に困っている方に利用し頂いた方が市街地は助かると思います。
- ・循環線の拡充、民間業者との連携、地区内でのボランティア車両の運営方法等検討することも大切だと思います。
- ・人口減が急速に進む現在、経費的に見ても路線バス運行のみによる足の確保は難しいと思われれます。各町会単位に超コンパクトカーを置きシェアして利用してもらおう等のバスの運行のみに頼らず、他の方法も併せて対策すべきだと思います。

ケ 公共交通への考え

- ・交通弱者、市民を念頭とした交通施策への投資は賛成である。
- ・利用者の高齢化が進んでいますので運行に伴う安全性、安心性、経済性等への配慮が特に求められます。
 - ・人口に関わらず、ある程度は公平にバスを走らせてほしい。せめて梓川支所・中心市街地には支障なく行きたい
 - ・あれば都合がいい、移動手段のない人のためにとかの理由で空で運行しているバスの利用向上を図るよりも、ほんとうに移動手段を必要としているのは何人いるか、その人の移動手段をどう確保するかに対策を傾注したほうが効率的ではないかと思う。
 - ・バスの利用しやすい本数と鉄道への接続しやすさ（待ち時間がそれ程多くなる）を期待するが現実的には経済的に無理がある様に思われる。それよりも買物した時の事を考えると荷物等大変さ等で自宅までの乗合的タクシーの方が良いかもしれない。これについては多少高い運賃でもやむを得ないと感じる。
 - ・わたしは行く場所も時間も自由に選べるタクシー代の補助をしていただければと助かります。

・CO₂を出さないで「クリーンな松本市をつくる」ことを目的とするを標榜しスイスのツエルマツトのように全て（自家用車を含め）電気自動車を使うように義務化する。高校生の通学及び通勤者は原則的に電車を利用する。主要駅への通学・通勤に公民バスを使う。朝夕の主要駅まで主要駅からのバスを増やし利用しやすくする。市内の中心部は原則自家用車を入れない。駅から歩いて中心部に行く。松本市を環境先進都市とするために、電気バスをくまなく走らせ酸素濃度の高いCO₂濃度が抜群に低い街にしたい。

- ・バスの運行で利便性をよくしても、利用が増えるとは思えない。
- ・バスの本数が増えても、ライフスタイルをかえてまでバスを使うかは分からない。